

購読のお申し込み
0120-026-999
配達・集金お問い合わせ
03-6910-2556
広告のご用命
028-624-4411

お買物と楽しい一日陶芸教室
益子の名所・日本一の陶芸センター
益子焼窯元共販センター
栃木県益子町益子 0285-72-4444(代)
P 1600台・大食堂完備・ギャラリー展開催

栃木

古き良き日本のたたずまいを残す古民家を保存、再利用しよう
という動きが盛んだ。県内では先月、梁や柱など良質な古材に市場価値を付けて再利用を促す「県古民家再生協会」が発足した。
関係者は「伝統的な古民家の良さを次世代に残したい」と意気込んでいる。

(横井武昭)

鑑定士ら「再生協会」発足

「梁に使われているのはマツやクリ。いろいろの煙でいぶされ独特の風合いがあるし、こんな太い木は今は手に入らない。ほれぼれますね」。那珂川町にある築三百年の木造住宅。歴史を感じさせるかやぶき屋根や黒光りする柱を丹念に調べながら、古民家鑑定士の薄井菜摘さん(二)がつぶやいた。

古民家は伝統的な建築方法で建てられ、現在は伐採できない貴重な木材が使われている場合もある。「長い歳月をかけて自然乾燥し

古民家を生かせ

古民家再生協会は薄井さんと鈴木健規理事長らが
「古くなつたから壊すのでなく、家や材木を有効に
生かす取り組みを県内に広めたい」として設立した。現在、県内にある古民

古民家を再生させよう



古民家は約一万五千軒。希望者宅に鑑定士を派遣したり、古民家や古材を再利用した店舗の企画などを担っている。
薄井さんは「捨てずに再利用すれば廃材が減り、地球環境にも配慮できる。利点が多い古民家の再活用法をどんどん提案していく」と力を込めた。

家は約一万五千軒。希望者宅に鑑定士を派遣したり、古民家や古材を再利用した店舗の企画などを担っている。

薄井さんは「捨てずに再

利するには、家や材木を有効に生かす取り組みを県内に広めたい」として設立した。現在、県内にある古民

い」と力を込めた。